

5 日本語学習者との交流事業（国際交流基金）

訪問日：11月22日（木）12：30～17：00

訪問先：国際交流基金

1 日本語学習者との交流事業概要

グループごとのテーマ（①外国語教育、②食文化、③ポップカルチャー、④結婚式、⑤Facebook・SNS・ブログ）について、前半はグループごとにテーマを中心とした意見交換、後半はインドネシア側、日本側でそれぞれ準備してきた内容を交互に発表することで、お互いの理解を深め交流の促進を図ることを目的に行われた。

インドネシア側は、ジャカルタ近郊の5大学の学生15人とそれぞれの教員が参加した。

2 グループディスカッション

事務局によるオリエンテーションの後、グループごとに昼食を囲みながら意見交換を開始した。どうして日本語を学ぼうと思ったのか、日本で行ったことのある場所、好きな料理などの基本的な話題や双方の発表内容に関する話題などで盛り上がった。インドネシア側のメンバーは日本の色々な場所に行った経験があり、マンガや若者ことばなど日本のことを非常によく知っていることが印象的であった。



和やかムードでディスカッション

3 全体発表

後半はグループごとにインドネシア、日本の順にテーマに沿った紹介が行われた。それぞれ凝ったパワーポイント資料を用意しており、双方の国の文化の違いや共通点に興味深く聞きいていた。

インドネシアに関して、外国語教育については、小学校1年生から英語を学び、高校1年生から第二外国語の授業があることなどが紹介された。他には、国土の

広いインドネシアでは地域によって様々な料理があること、インドネシアでも日本のアニメのコスプレイベントや結婚式の際の引き出物があること、東日本大震災のとき Facebook を通じてインドネシア語の翻訳を行った事例などが紹介された。



全体発表の様子

4 インドネシアの日本語学習者

今回参加のインドネシア学生の日本語レベルはすばらしく、流暢な会話のほか、プレゼンテーションの終わりに「ご静聴ありがとうございます」と添えるなど、日本にいるかのような雰囲気と驚きがあった。

インドネシアの日本語学習者数は世界3位である。しかも、ここ数年に高校生ら若い世代を中心に大きく伸びており、将来の両国の架け橋となることが期待される。

【文責：公益財団法人愛知県国際交流協会 石川 淳二】

6 グランドインドネシアショッピングモール

訪問日：11月21日（水）18：00～19：00

訪問先：グランドインドネシアショッピングタウン内

1 グランドインドネシアショッピングモール

到着時は夕刻で雨天であったため外観をしっかりと見ることはできなかったが、近代的な大型施設であった。ひとたびショッピングモール内に入ると、清潔で開放的な空間に有名ブランドや日本企業の店が並び、日本のショッピングモールにしているような感覚を覚えた。日本でもなじみのある SEIBU（フランチャイズ）や無印良品、地下の食料品売り場には、「しょくぱん」と書かれたパン屋も見られた。

また、ショッピングモール前の道路を挟んで向かい側には、ジャカルタ市内でよく見かけた屋台が並んでいた。格差に違和感を覚えたが、富裕層が訪れる施設の傍には彼らの運転手が食事をするための屋台が必要であるから当然の状況とのこと。

ジャカルタで働く日本人の家族にとって、このようなショッピングモールに訪れることが、生活必需品を調達するだけでなく娯楽の一つとなっているとのこと。

2 デモによる道路封鎖と交通渋滞

インドネシア内務省からショッピングモールへ向かったが、30分程度で到着する予定が約3時間かかった。激しい交通渋滞の原因は、デモにより道路が封鎖されたためであった。インドネシアでは、労働条件の改善要求や政府の政策への不満を訴えるデモが頻発しているとのこと。

3 所感

最先端のショッピングタウンがある一方で、デモや激しい交通渋滞が起こっている状況にアンバランスさを感じた。しかし、同時に成長期にある国の勢いを感じた。近い将来、ショッピングタウンだけでなく、都市全体がより快適なまちに発展することを期待する。



グランドインドネシアショッピングモール (SEIBU)



グランドインドネシアショッピングモール(無印良品)



車中から撮影したデモの様子



デモのためやむを得ず渋滞する対向車線へUターン

【文責：北九州市 廣瀬 純子】